

「履歴書」及び「教育研究業績書」の作成要領

富山大学学術研究部教育学系

◎「履歴書」(様式1)

それぞれの欄に、以下のとおり記載してください。なお、各事項について特記事項がない場合は、空欄にせず「特記事項なし」と記載すること。また、年月は和暦で記載すること。

①「学歴」

- ・大学、高等専門学校（又はこれと同等以上の学校）卒業以上の学歴を、学位・称号を含めて記載すること。（該当するものがない場合は最終学歴を記載すること）

②「職歴」

- ・全ての職歴（自営業、主婦、無職等を含む。）を記載すること。
- ・各職歴は在職期間が分かるように記載し、現職には「現在に至る」と記載すること。
- ・研究者としての外国の大学等への留学歴も記載すること。
- ・過去10年以内の課程認定委員会における教員審査において単独担当で可とされた者は、当該審査に係る審査年・大学・職名及び担当授業科目名を記載すること。

③「学会及び社会における活動等」

- ・「現在所属している学会」欄には、提出時において所属する学会の名称を記載すること。
- ・学会及び社会における活動のうち、本人の専攻、研究分野等に関連した事項について記載すること。

④「資格等」

- ・本人の専攻、研究分野等に関連した資格等について記載すること。

⑤「賞罰」

- ・学会等からの表彰や職務上の表彰や懲戒処分、研究費の不正受給に係る処分等を記載すること。

◎「教育研究業績書」(様式2)

この書類は、教育上の能力に関する事項、職務上の実績に関する事項及び研究業績等に関する事項等（発行又は発表が予定されているものを含む。）について作成してください。

A「研究分野」及び「研究内容のキーワード」

- ・「研究分野」の欄には、科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」の分科レベルの名称を用いて、研究分野の主なものを3つ以内で記載すること。
- ・「研究内容のキーワード」の欄には、同表の細目を参考に、研究内容を表すキーワードを5つ以内で記載すること。
- ・分科レベルに該当がない場合は、適宜記載すること。

B「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」

- ・「事項」の項には、各区分に該当する教育上の能力及び職務上の実績に関する事項を、以下の

例を参考に、過去から現在まで簡潔に記載すること。

1 教育方法の実践例

大学・短期大学・大学院など高等教育機関において授業科目を担当している教員が、学生の理解を図るため、工夫を凝らした分かりやすい授業を実施している場合、その内容を記載すること。

(具体例) ICT 等を活用した授業方法

学生の授業外における学習効果促進のための取り組み

授業内容の web 上での公開 等

2 作成した教科書・教材

学生の理解を図るために作成し、また、授業や教職指導などにおいて活用している教科書や教材を記載すること。(後の「研究業績等に関する事項」との重複も可。その場合「(再掲)」と表記すること。)

3 教育上の能力に対する大学等の評価

学生の理解を図るために行っている教育上の取組(授業や教職指導などを通じた取組)に対して、大学等から特に高い評価を受けた場合のみ記載すること。

(具体例) 各大学における自己点検・自己評価での評価結果

学生による授業評価(FD アンケート)の結果、教員相互による評価結果

4 実務の経験を有する者についての特記事項

学校現場等における教育に関する取組の中で学生の理解を図ることに資するものがあれば記載すること。

(具体例) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校との教育実績(出前講座等)

フィールドワーク

大学から受け入れた教育実習生等に対する指導

大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等

5 その他

学生の理解を図るために行っている取組のうち、上記に該当しないものを記載。

(具体例) 大学教育改善に関する団体等での活動の概要、教育実績に対する表彰等

C 「職務上の実績に関する事項」

1 資格、免許

教員等の資格で担当授業科目に関するものを記載(履歴書と重複してもよいので記載する)

2 特許等

特許、実用新案等で担当授業科目に関連するものがあれば、これを記載すること。

3 実務の経験を有する者についての特記事項

教員の教育現場等での教育に関する取組の中で担当授業科目と関連のあるものがあれば記載する。

(具体例) 研究指定校での教育課程の研究開発

教員を対象とした研修等の講師の経験

教育委員や学校評議員の委員等の経験

D 「研究業績等に関する事項」

「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものは記載できません。未印刷論文については、採用が決定しているもののみを、「発行又は発表の年月」の項に「(掲載決定)」と記入し、あらかじめ発表雑誌の巻・号等が明らかなきは、それも記入してください。

- 「著書、学術論文等の名称」の項には、以下の点に留意の上、「(著書)」、「(学術論文・査読付)」、「(学術論文・査読無)」、「(演奏等発表(作品、演奏、指揮))」、「(総説・解説)」、「(学会発表、講演等)」、「(その他)」の項目に適切に区分し、各業績を発表年月の古いものから順に通し番号を付して記載すること。
 - ア 「(著書)」については、書名を記載すること。
 - イ 「(学術論文・査読付)」、「(学術論文・査読無)」については、国際学術雑誌、学会機関紙、研究報告等に学術論文として発表したものの題名を記載すること。また、「査読付」と「査読無」に区分した上で、各論文の題名の後に「(査読付)」又は「(査読無)」と記載すること(記載例を参照)。学位論文についてはその旨を明記すること。
 - ウ 「(学会発表、講演等)」については、関連する学会発表、講演等において、活字として発表された研究業績を記載すること。
 - エ 「(その他)」については、担当授業科目に関連する総説、学会抄録、依頼原稿、報告発表など記事のタイトルを、報告発表、座談会、討論会等にあつてはそのテーマを記載すること。
- 「単著・共著の別」欄は、当該著書等に記載された著作者が1人である場合には「単」、著作者が複数いる場合には、監修、編集、編著、共著、部分執筆等の関わり方によらず「共」と記載すること。なお、学術論文等の「単著・共著等の別」は、論文自体の単著・共著の別であり、掲載媒体の単著・共著ではない。
- 「発行又は発表の年月」欄は、当該著書等の発行又は発表の年月を記入する。
- 「発行所、発表雑誌等又は発表学会の名称」欄について
 - ア 著書については、発行所を記入する。
 - イ 学術論文等については、発表雑誌の名称、巻・号、掲載ページ等を明記する。
 - ウ 報告発表等の場合は、学会大会名、開催場所等を明記する。
- 「概要」欄について
 - ア 当該著書等の概要を200字程度で記入する。
 - イ 当該著書が共著の場合には、当該著書の概要(200字程度)のほか、以下の事項を記入する。
 - ・ 本人の担当部分の章、節、題名、掲載ページ(pp.〇〇～〇〇)(本人の担当部分を抽出できない場合は、これらの代わりに担当部分を抽出できない理由を記入すること)
※共同研究により、本人の担当執筆部分が不可分な場合は「共同研究により抽出不可能」と記載する。
 - ・ 本人の氏名を含む著作者全員の氏名(多数にわたる場合は主要な著者の氏名)を当該著書等に記載された順に記載する。その上で、本人の氏名に下線を引く。
 - ・ 学術論文に関して、本人が責任著者である場合は、本人氏名の後にアスタリスクを付すこと。(例：富山 太郎*)なお、責任著者は論文の投稿、査読、制作プロセスにおけるすべてのやり取りに主たる責任を負う者をいう。

以上